

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

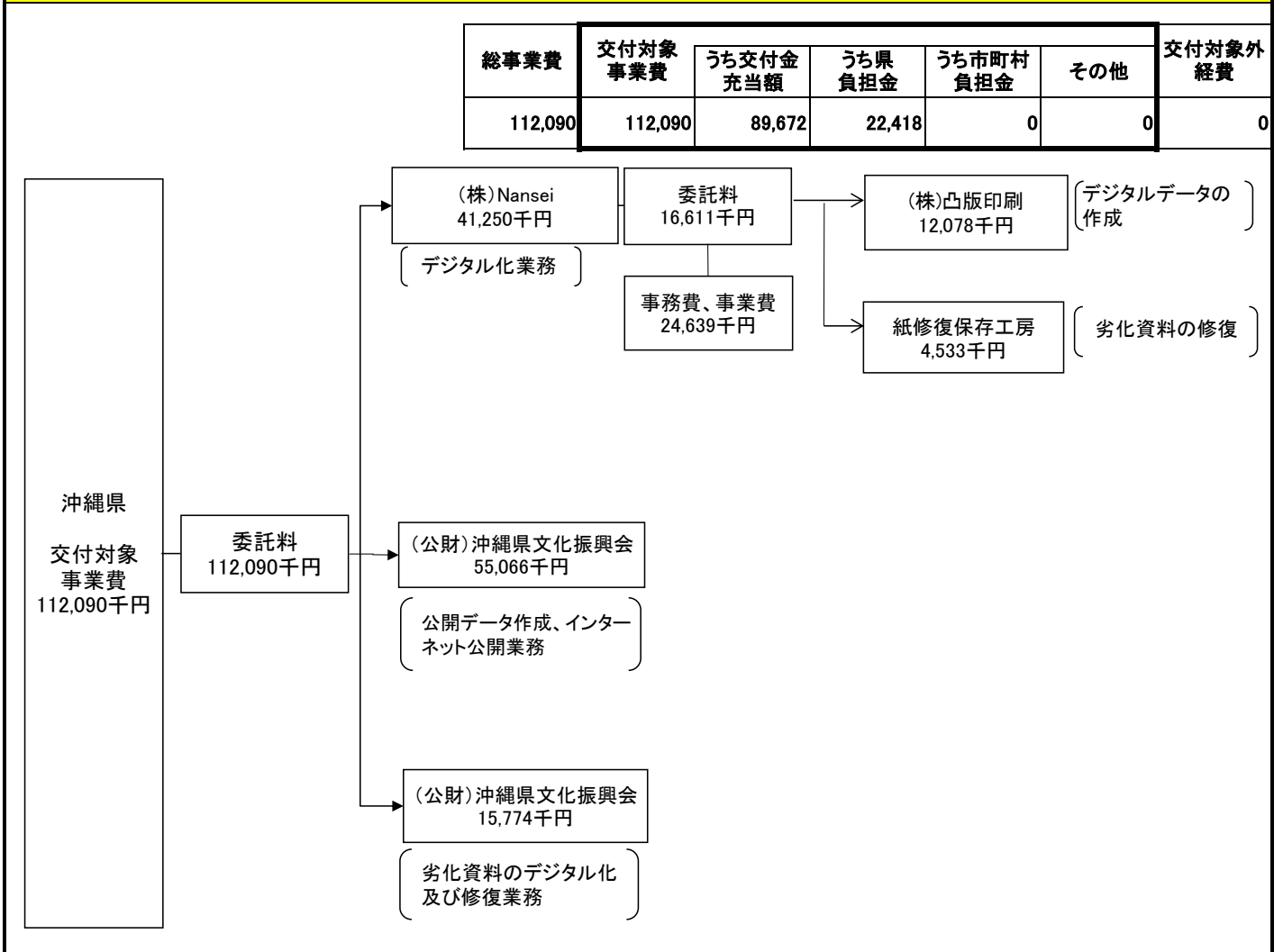
事業番号・事業名	1	琉球政府関係文書デジタル・アーカイブ事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-⑤				
担当部課名	総務部 総務私学課	事業実施 (予定)年度	H25～R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用			
事業内容	県民等が琉球政府関係文書に対する理解を深めるため、琉球政府関係の紙文書・資料(劣化の激しい資料は、デジタル化の前に修復)をデジタル化し、ホームページで公開する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	225,178		116,864		112,829	
		(b) 予算現額	227,266		116,864		112,829	
		(c) 増減額(b-a)	2,088	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額	0		0		0	
		A. 計(b+d)	227,266	0	116,864	0	112,829	
	B. 執行済額		227,209		116,630		112,090	
	うち交付金充当額		181,767		93,304		89,672	
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%		99.8%		99.3%	
予算の状況の説明		執行率は99.3%であり、計画的に執行できた。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	デジタル・データの作成	目標	11,000簿冊	12,000簿冊	3,000簿冊	2,500簿冊		
		実績	11,010簿冊	12,049簿冊	3,006簿冊	2,792簿冊		
	個人情報の確認・マスキング	目標	22,000簿冊	27,236簿冊	5,500簿冊	5,500簿冊		
		実績	34,050簿冊	37,663簿冊	6,579簿冊	5,909簿冊		
	インターネット公開	目標	19,000簿冊	28,272簿冊	4,000簿冊	4,000簿冊		
		実績	21,728簿冊	38,760簿冊	6,214簿冊	6,134簿冊		
	進捗状況説明	・デジタル・データの作成については、事業の進捗状況を定期的に確認することで、遅延が発生することなく目標値を達成した。 ・簿冊に含まれる個人情報の確認及びマスキング処理については、過年度にデジタル化を実施していた分も含めて実施し、目標値を達成した。 ・インターネット公開については、R5年度に個人情報の確認・マスキングを実施した簿冊に加え、過年度に個人情報の確認等を実施していた未公開分についても公開することができた。						
	成果目標 (指標) 及び達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
①公開したホームページの年間アクセス数		目標		40,000アクセス	43,000アクセス	45,000アクセス		
		実績			36,555アクセス	47,029アクセス	49,496アクセス	
②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する		目標			80%	80%	80%	
		実績			83%	79%	100%	
達成状況説明		①アクセス数は目標を上回る実績を達成。公開資料の充実、広報活動の継続が増加傾向の要因と思われる。 ②琉球政府関係文書に関する理解は、サイト利用者のアンケート結果をもとにしているが、有効回答が少数であったことから、今後は、アンケートの回答数を増やす取組みを実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>①戦後の米国統治下にあった沖縄について、多くの住民が様々な角度から理解を深めるために、デジタルアーカイブコンテンツをより一層充実させていく必要がある。</p> <p>②R4年度から公開開始した琉球列島米国政府(USCAR)文書は、統治者側の考えがわかる貴重な文書だが、英語で書かれていることもあり、一般には利用されにくく利用者層が限られている。</p>	<p>①これまでは県公文書館が所蔵する琉球政府文書やUSCAR文書のデジタルアーカイブを進めているが、復帰から50年以上経過した現在、当時の貴重な記録を失うリスクも高まっており、未所蔵の歴史公文書の収集に取り組む必要がある。</p> <p>②USCAR文書の要旨説明やキーワード等、目録情報の充実及び文書を理解する上で参考になるガイドコンテンツの充実を引き続き行っていく。</p>

今後の取り組み方針

- ①米国統治下の重要な行政活動が記録された公文書について、国や市町村等を対象に現存調査を行い、その結果を踏まえて積極的に収集し、デジタルアーカイブコンテンツを充実させていく。
- ②USCAR文書をはじめ、一般に馴染みのない公文書の利用拡大を図るには、これまでの一般向け広報活動に加え、テレビや新聞等のマスメディア、学校や図書館等の教育機関等と連携し、公文書を素材にした2次利用(番組や教材など)を促進する取組みを行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。</p> <p>○費目・使途については、事業報告書等进行检查し、適正である事を確認した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	在米沖縄関係資料収集公開事業			新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-⑤	
担当部課名	総務部 総務私学課	事業実施 (予定)年度	H29～R9 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用 Ⅲ-3-(3)	
事業内容	県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館に所蔵されている沖縄関係の資料(写真や動画を含む)を収集し、翻訳・整理を行い、県民等の利用に供する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	15,522		13,970		12,008
		(b) 予算現額	10,152		8,197		12,008
		(c) 増減額(b-a)	▲ 5,370	0	▲ 5,773	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		
		A. 計(b+d)	10,152	0	8,197	0	12,008
	B. 執行済額		10,109		6,732		11,937
	うち交付金充当額		8,087		5,385		9,550
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.6%		82.1%		99.4%
予算の状況の説明		令和5年度は、円安の影響で資料の収集数等に変動があることが予想されたことから、早期に情報収集を行い、米国国立公文書館での写真収集及び、現地業者への委託が必要な空中写真及び動画の収集を実施した。これにより、執行率99.4%を達成した。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	対象資料(写真や動画を含む)の収集、資料の翻訳、目録整理の実施	目標	収集、整理する	収集、整理する	1,200点	3,205点	
		実績	0点	0点	1,678点	3,483点	
	収集資料のインターネット公開	目標	一部公開する	一部公開する	1,140簿冊	3,046簿冊	
実績		公開検証した	公開検証した	1,678簿冊	3,483簿冊		
進捗状況説明		R2年度、R3年度については、新型コロナウイルス感染症拡大により米国国立公文書館が利用できなかったことから収集の遅れが生じていた。その遅れを取り戻すため、R5年度は高い目標値を設定したが、目標を上回る実績を上げることができた。					
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	①閲覧された資料数(pv※) *資料掲載ページの閲覧回数	目標		241,000pv	250,000pv	275,000pv	
		実績		490,229pv	1,267,133pv	532,678pv	
	②在米沖縄関係資料に対する理解※ ※サイト利用者アンケートの満足度	目標		80%	80%	80%	
		実績		78%	82%	38%	
達成状況説明		①資料の閲覧回数については、目標を大きく上回る実績を達成。対前年度比では減少しているが、R4年度は復帰50周年という節目の年だったため閲覧回数が極端に多くなったと思われる。 ②資料に対する理解の指標は、写真、空中写真、動画を閲覧した利用者に対するアンケート結果の満足度をもとにしているが、回答数が少数であった。今後は、アンケートの回答数を増やす取組みとともに、閲覧システムの性能向上を図り、満足度の向上に努めていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①写真をデジタル化できる量は、米国国立公文書館の利用制限の範囲で行うため、効率的に収集するための事前準備と同館との調整が必要。</p> <p>②空中写真や動画のデジタル化は、米国の専門業者に委託する必要があるため、円安が事業経費に大きく影響する。</p>	<p>①計画どおりに資料が収集できるよう、適宜米国国立公文書館の利用状況や利用環境(貸出申請の制限)の確認を行う等、県、事業受託者において情報収集・共有を徹底し、事業を推進する必要がある。</p> <p>②公開資料も充実してきたので、今後はより一層、利用促進のための取組みを強化していく。</p>

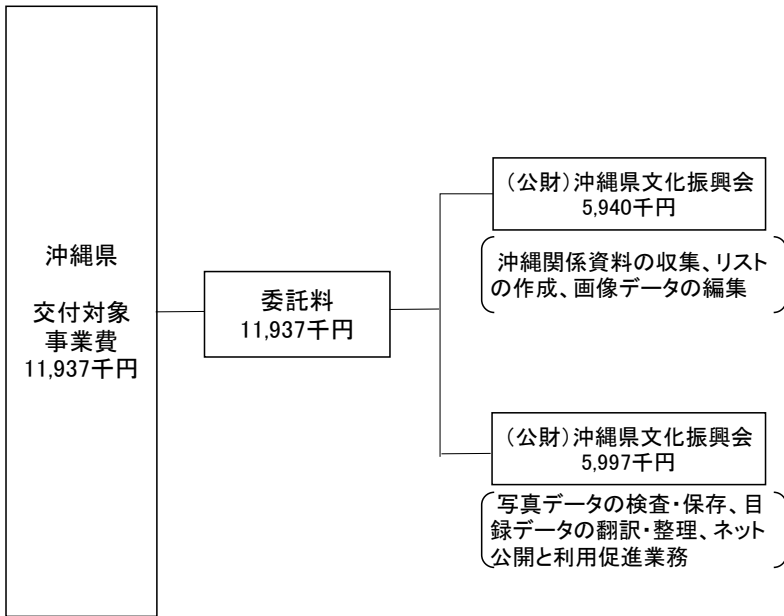
今後の取り組み方針

①公開に向けた写真・動画の収集のため、米国国立公文書館の利用状況や利用環境の確認を行う等、情報収集・共有を徹底し、利用状況に応じた対応策について、引続き県、事業受託者において協力体制を構築していく。

②資料の公開に関しては、利用拡大に繋げるため、県民等への効果的な周知内容等の検討とその実施に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
11,937	11,937	9,550	2,387	0	0	0



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

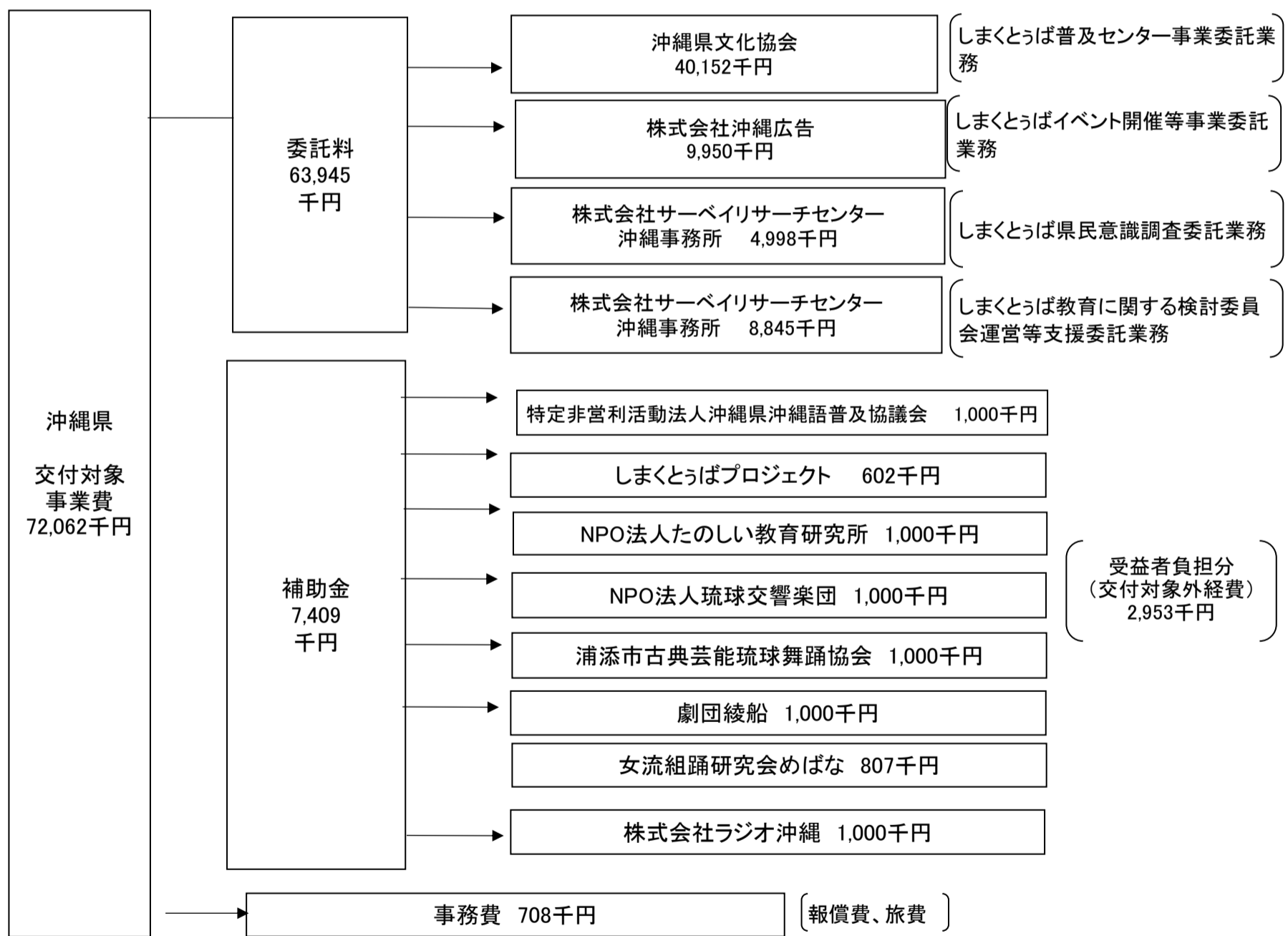
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	155	しまくとぅば普及継承事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	1-(4)-ア-①		
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施（予定）年度	H26～R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	各地域におけるしまくとぅばの保存・普及・継承の促進		
事業内容	しまくとぅばの普及・継承を図るため、以下の取組を実施する。 ・普及センターの運営、人材養成講座の実施、民間への補助、読本の配布など、各地への普及促進の取組を行う。 ・普及推進委員会、県民意識調査により取組みの効果検証を行う。 ・県民大会（功労者表彰）、普及イベント開催等の気運醸成の取組を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度（R6年度）						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	94,806		70,032		74,197
		(b) 予算現額	94,806		70,032		74,197
		(c) 増減額（b-a）	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計（b+d）	94,806	0	70,032	0	74,197
	B. 執行済額		85,988		61,965		72,062
	うち交付金充当額		68,790		49,572		57,649
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）（B/A）		90.7%		88.5%		97.1%
予算の状況の説明		・執行率は97.1%であり、不用は主に委託料、補助金の執行残のほか、事務費（旅費、需用費等）の執行残					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	講師養成講座実施回数	目標	-	-	-	60回	
		実績	32回	65回	58回	51回	
	県民大会（功労者表彰）、普及イベントの実施	目標	-	-	-	2回	
実績		-	1回	2回	2回		
進捗状況説明	・講師養成講座の実施回数（コマ数）目標60回に対し、実績51回と85%の達成率である。 ・県民大会は、9月に第一部、2月に第二部を実施し、活動目標を達成した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（R2年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（6年度）
	講師養成講座実施回数講座の修了者	目標	-	-	-	75名	75名
		実績	36名	76名	42名	51名	
	イベント参加者数	目標	-	-	1,000人	1,670人	1,670人
		実績	-	176人	687人	1,340人	
【R6 成果目標】 しまくとぅばを挨拶程度以上話せる人の割合		目標				40%	
達成状況説明	・講師養成講座の修了者は目標75名に対し、51名の修了者（合格者）で68%の達成率である。 ・イベント参加者数は、目標1,670に対し、実績は1,340人（しまくとぅば関連イベントの来場者含む）で80%の達成率である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和5年度の「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅばを挨拶程度以上使う」人の割合は36.8%であり、昨年度の39.0%から減少しているが、「しまくとぅばに対し、親しみがある」人の割合(82.8%)をはじめ、多くの調査項目において、数値が昨年度より増加した結果となっており、本事業の取組みの効果が一定程度生じていると考えられる。	しまくとぅば普及の中核的機能を担う「しまくとぅば普及センター」を中心に講師養成講座の開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組みに重点化するとともに、それを総括する窓口機能に注力するなど、関係機関や関係団体と連携を図りながら、しまくとぅばを聞く機会や話す機会の創出に取り組む。
今後の取り組み方針		
人材養成等の取組やしまくとぅばの普及に取り組む団体への支援を実施するなど、普及に向けた取組を引き続き行っていくとともに、令和6年3月から新たにスタートした「しまくとぅば」の学習コンテンツである「Eラーニング」により、「しまくとぅば」の使用頻度向上を図る。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
75,015	72,062	57,649	14,413	0	0	2,953



資金の流し、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先及び補助事業者については、実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。 ・補助事業については、NPO法人などが主な補助先であるが、補助率は8割で2割は自己負担としており負担関係は妥当であると考えられる。 ・委託額や補助額を確認するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	158	しまくとぅばアーカイブ事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-①				
				各地域におけるしまくとぅばの保存・普及・継承の促進				
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施 (予定)年度	R4~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)		
事業内容	<p>沖縄県内において、各地域のしまくとぅばを調査・収集し、また音声・映像の収録及び教材作成により、しまくとぅばの保存に繋げる。</p> <p>(1)各地域ごとの文法的事項が織り込まれた文法調査票の収集 (2)文法調査票と連動した教材の作成 (3)教科書に掲載されている歌、文学的文章の収録 (4)自然談話の収録 (5)各題材の公開(前年度実施分)</p>							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】			R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額				22,500		22,232
		(b) 予算現額				22,500		22,232
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額						
		A. 計(b+d)	0	0	22,500	0	22,232	
	B. 執行済額				12,389		16,496	
	うち交付金充当額				9,911		13,196	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)				55.1%		74.2%	
予算の状況の説明		執行率は74.2%であり、不用は主に委託業務における旅費の執行残による。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	文法調査票の収集	目標	-	-	44地域	44地域		
		実績	-	-	44地域	44地域×2種		
	文法調査票と連動した教材ひな形(小学校中学年)の作成	目標	-	-	1セット	1セット		
		実績	-	-	1セット	1セット		
	教科書掲載の歌、文学的文章の収録	目標	-	-	49地域、49地域	49地域、49地域		
		実績	-	-	50地域、50地域	50地域、50地域		
	自然談話の収録	目標	-	-	2話	2話		
		実績	-	-	2話	2話		
進捗状況説明	文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等の成果について、目標のとおり達成している。							
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (8年度累計)	
	文法調査票の収集	目標	-	-	44地域	44地域×2種	264地域	
		実績	-	-	44地域	44地域×2種		
	文法調査票と連動した教材ひな形(小学校中学年)の作成	目標	-	-	1セット	1セット	4セット	
		実績	-	-	1セット	1セット		
	教科書掲載の歌、文学的文章の収録	目標	-	-	49地域	49地域	200地域、 200地域	
		実績	-	-	50地域	50地域		
	自然談話の収録	目標	-	-	2話	2話	6話	
		実績	-	-	2話	2話	6話	
	達成状況説明	文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等の成果について、目標のとおり達成している。						

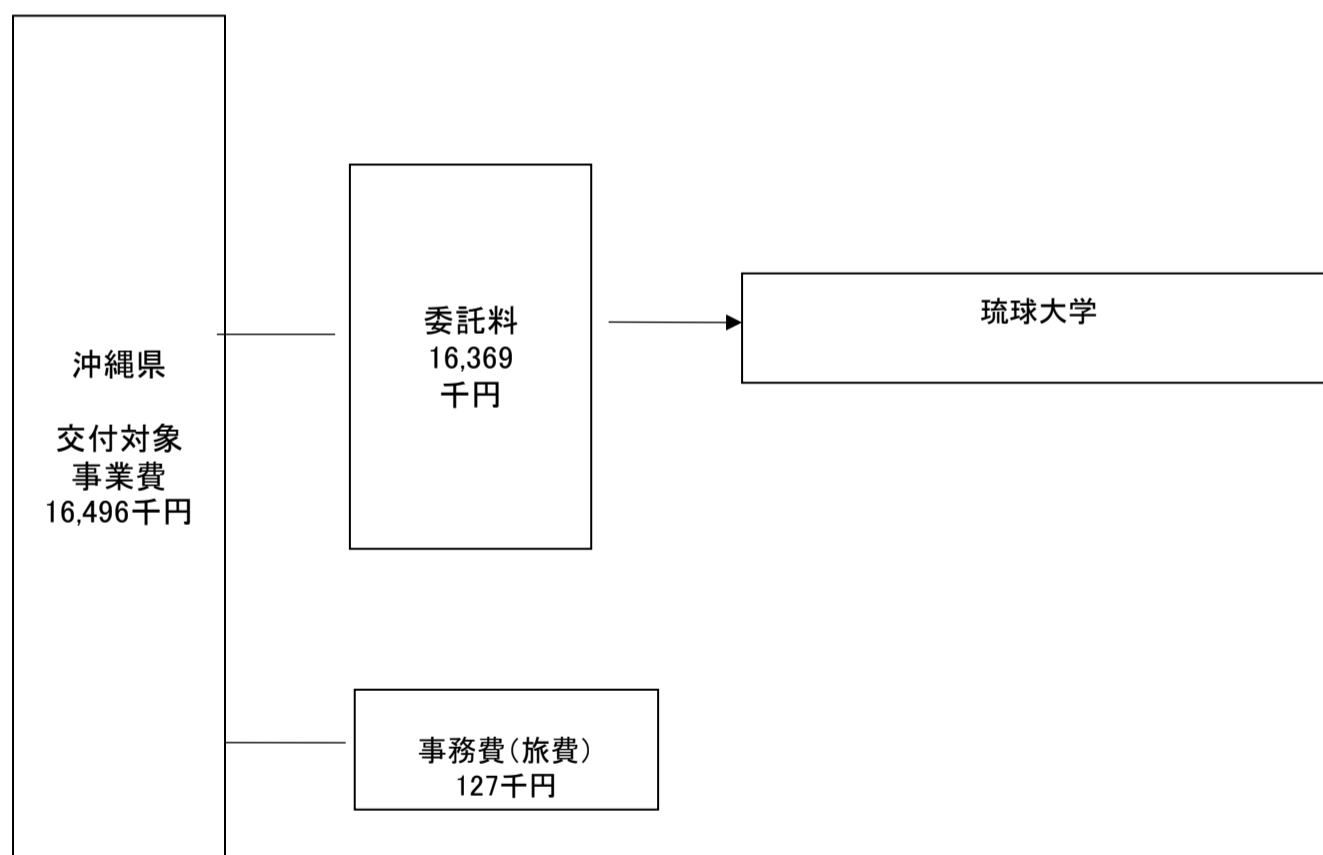
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等、仕様で求めている成果は、目標のとおり達成しているが、調査対象地域については、予定していた地域の話者が高齢で対応が困難であることが、事業を進める上で明らかになったことにより、一部地域を変更している地点もある。</p>	<p>調査対象地域の実態を早期に把握し、目標数の達成を確実に見込めるように推進していく。 また、教科書掲載の曲及び文学的文章の選定にあたっては、著作権に関わる事前の調整を徹底し、HP上での恒久的な公開に支障がでないよう進める。</p>

今後の取り組み方針

しまくとぅばアーカイブについては、文法調査法や収録する歌、文学的文章のしまくとぅばへの文法的な精査も含めた自然談話の文字化等、言語学的な専門知識が求められることに加えて、話者が減少しつつある現状では、地域との信頼関係に基づく早期の調査が求められる。
今後においても、調査を進める上で収集予定地域の変更等が必要となってくる場合も想定されるため、県、受託先の琉球大学、調査対象地域の話者と連携体制を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
16,496	16,496	13,196	3,300	0	0	0

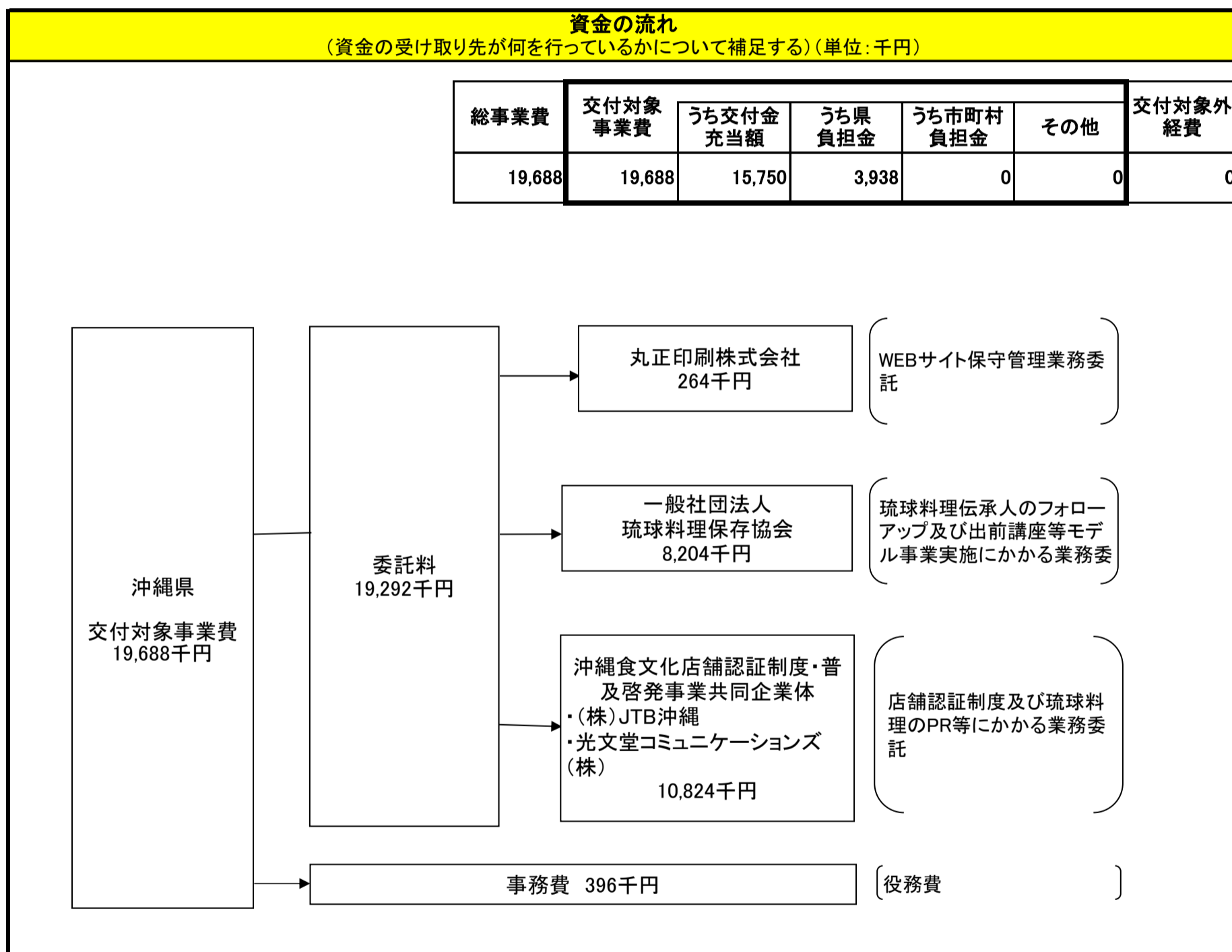


資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託先については、実績やノウハウなどを勘案して選定しており、妥当であった。 ○委託額を確認するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費であったかなどを検査した結果、適正であったと認められた。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	159	沖縄食文化保存普及継承事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-③			
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施 (予定)年度	R4~R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	伝統文化の保存・継承・発展		
事業内容	沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承を図り次世代へ継承するとともに観光資源としての活用に繋げ、県民がその価値を再認識し、一体となって受け継いでいく気運醸成を図る取り組みを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			21,250		20,997
		(b) 予算現額			21,250		20,997
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	21,250	0	20,997
	B. 執行済額				19,537		19,688
	うち交付金充当額				15,629		15,750
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)				91.9%		93.8%
予算の状況の説明		執行率93.8%であり、主に委託料の実績減によるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	琉球料理传承人のフォローアップ講座開催	目標	-	-		1回/年	
		実績	-	-		3回/年	
	出前講座モデル事業	目標	-	-	5件	5件	
		実績	-	-	5件	5件	
	料理レシピ動画作成	目標	-	-		1件	
		実績	-	-		2件	
	WEB等による情報発信	目標	-	-		情報発信を行う	
		実績	-	-		情報発信を行った	
琉球料理が味わえる店(仮称)認証	目標	-	-		1回		
	実績	-	-		2回		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 琉球料理传承人フォローアップ講座について、年間で講座3件開催し、目標を達成した。 出前講座モデル事業について、県内地域住民、食関連業界団体等、修学旅行関係者、学校関係者及び県外沖縄関連事業者向けにそれぞれ各1回、合計5回実施し、目標を達成した。 琉球料理のレシピ動画を2件作成し、WEBサイト等で公開し、目標を達成した。 WEBサイト等で沖縄の伝統的な食文化についての情報発信を行い、目標を達成した。 琉球料理が味わえる店の認証審査会を2回開催し、目標を達成した。 						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	琉球料理传承人フォローアップ	目標		-	10人	70人	
		実績		-	53人	175人	
	出前講座モデル事業目標参加人数	目標		-	100人	100人	
		実績		-	145人	347人	
	食文化HPページビュー	目標		-	50,000件/年	50,000件/年	
		実績		-	81,183件/年	103,874件/年	
	琉球料理が味わえる店(仮称)認証	目標		-		30件	
		実績		-		12件	
	達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 琉球料理传承人のフォローアップについて、琉球料理传承人175名(累計)に対し知識及び技能向上を図るフォローアップ講座を実施し、目標を達成した。 出前講座モデル事業について、県内地域住民、修学旅行関係者、学校関係者及び県外沖縄関連事業者、合計97人が参加したほか、食関連業界団体等約250人が来場したイベントにて出前講座を実施し目標を達成した。 食文化HPページビューについて、5万件の目標に対し、約10万3千件となっており、目標を達成した。 琉球料理が味わえる店(仮称)の認証について、事業初年度ということもあり、途中で要件の確認手法の見直し等を行ったことから認証手続きに遅れが生じ、当初予定していた30店舗すべての認証を年度内に終えることができなかった。 					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統的な食文化は若い世代を中心とした伝統料理離れが進み失われつつある中、沖縄の伝統的な食文化に関する認知度は以前低いままとなっている。 ・「琉球料理が味わえる店」認証制度について、認証要件の確認にあたり書類審査に加え現地調査も実施するため、審査時間を十分に確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を含む県民、観光客に向けて沖縄の伝統的な食文化について普及促進を図り、認知度向上へ繋げる必要がある。 ・「琉球料理が味わえる店」認証制度について、審査時間を十分に確保できるよう募集開始時期等の見直しや関係団体等と連携を図り、年度内に認証手続きを完了できるよう取り組む必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>令和5年度から「琉球料理が味わえる店」認証制度を開始したため、当制度のPRと併せて、沖縄の伝統的な食文化について、传承人活動を強化するなどこれまで以上にPR活動に尽力する。</p>		



資金の 用途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、特命随契及び企画提案プロポーザル等、委託内容毎に適切な選定方法により選定し、いずれも妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時に必要な経費であったか支出等に関する書類により確認しており、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

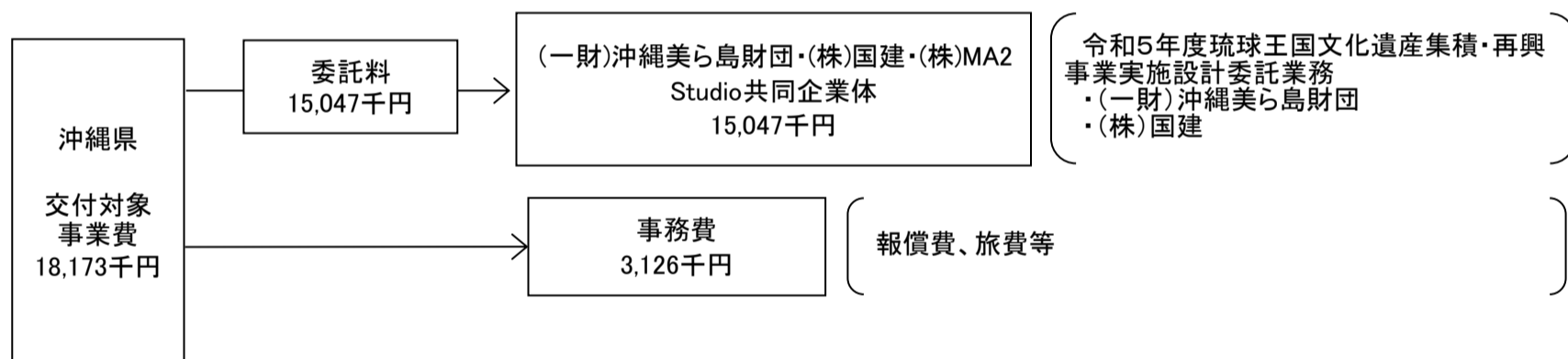
令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	160	琉球王国文化遺産集積・再興事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-④		
					文化財の保存・活用		
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課（博物館・美術館）	事業実施 (予定)年度	H27～R11 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(3)	
事業内容	模造復元対象となる文化遺産を選定するための調査						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R10～11年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	73,113		16,144		18,352
		(b) 予算現額	73,113		16,144		18,352
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	73,113	0	16,144	0	18,352
	B. 執行済額		64,995		14,802		18,173
	うち交付金充当額		51,995		11,841		14,537
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.9%		91.7%		99.0%
予算の状況の説明		執行率は、99.0%であり、主に旅費の執行残が発生した。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	国内外へ流出した文化遺産の所在及び調査の実施:2カ所		目標	—	—	35カ所	2カ所
		実績	—	—	179カ所	35カ所	
進捗状況説明		・監修者会議等による有識者からの意見等を反映して、復元対象資料及び関連資料の調査を8分野で35点実施し、目標を達成した。					
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	復元対象の決定(35点)		目標	—	35点	35点	—
			実績	—	179点	35点	—
	【R10成果目標】 復元資料完成及び展覧会実施		目標			復元資料延べ 35点 展覧会1回	
	【R11成果目標】 展覧会実施		目標			展覧会延べ2回	
達成状況説明		・監修者会議等による有識者からの意見等を反映して、復元対象を35点選定し、目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画・木彫・石彫・漆芸・陶芸・染織・金工・楽器の8分野において、琉球王国文化の体系化を図るためには、原資料や参考資料の目視調査とともに科学分析を行う必要がある事が明確化した。 ・模造復元に関して、昨今の社会情勢の変化による原材料の枯渇や高騰に留意した原材料の確保が必要である。 ・模造復元の製作工程等を広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学分析を元に必要な材料を明らかにし、早めに確保できるように努める。 ・模造復元の製作工程等を広く紹介するための効果的な発信方法を検討する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に科学分析、材料調達、試作等を行い、令和7年度からの本製作に向けた準備をする。あわせて、模造復元で得られた新知見の発信と、R7年度以降の効果的な発信方法を検討する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
18,173	18,173	14,537	3,636	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は、企画提案プロポーザルにて事業者を選定し、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において支出関係書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	186	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	1-(4)-ア-⑤			
担当部課名	教育委員会 文化財課	事業実施（予定）年度	H24～R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用		
事業内容	・県民等の琉球王国交流史への理解を深めるため、琉球王国外交文書（「歴代宝案」）等交流史料の編集刊行および普及活動を行う。 ・琉球王国交流史資料のデジタル化、デジタルアーカイブの拡充、コンテンツの充実を図る。 ・琉球王国交流史に関するウェブ教材を公開する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度（令和6年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	56,700		35,654		34,299
		(b) 予算現額	56,700		35,654		33,466
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計 (b+d)	56,700	0	35,654	0	33,466
	B. 執行済額		49,998		31,220		29,186
	うち交付金充当額		39,999		24,976		23,064
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		88.2%		87.6%		87.2%
予算の状況の説明		・執行率は87.2%であり、主に印刷製本費の入札残および会計年度任用職員の欠員による報酬および費用弁償などの執行残によるものである。					
活動目標（指標） 及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①琉球王国交流史関係の企画展、講座等の実施件数	目標	-	-	1回	1回	
		実績	-	-	8回	2回	
	②琉球王国交流史ウェブサイトのコラム・資料等公開件数	目標	-	-	200件	200件	
		実績	-	-	1,004件	370件	
	③琉球王国交流史に関するウェブ教材作成数	目標	-	-	3件	3件	
実績		-	-	3件	2件		
進捗状況説明	・沖縄県小中学校初任者研修「沖縄の歴史と文化」講座1回、沖縄県立総合教育センター夏期短期研修「中学校社会」授業事例紹介（講話）1回を実施した。琉球王国交流史デジタルアーカイブでは、歴代宝案訳注本ほか交流史資料のデジタル資料、ウェブ（デジタル）教材2件を含む計370件を公開した。琉球王国交流史に関するウェブ教材は2件作成した。						
成果目標（指標） 及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値 (H24年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	①琉球王国交流史関係の企画展、講座等参加者数	目標	-	-	200人	200人	200人
		実績	-	-	340人	348人	-
	②ウェブサイトへのアクセス数	目標	-	1,760件	5,280件	6,000件	6,456件
		実績	-	4,424件	8,945件	18,000件	-
	③琉球王国交流史に関するウェブ教材ダウンロード数	目標	-	-	44件	91件	136件
		実績	-	-	41件	425件	-
【R3 成果目標】 閲覧者のうち、琉球王国外交文書（「歴代宝案」）等に対する理解が深まったか（80%）を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する		目標	-	80%	-	-	-
達成状況説明	①県立総合教育センターでの小中学校の初任者研修や夏期研修で、歴代宝案を使用した授業実践事例の講座を開講したところ、参加者348人で、目標を達成することができた。 ②琉球王国交流史資料デジタルアーカイブのウェブサイトへの1年間のアクセス数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）が18,000件に達し、目標を達成することができた。 ③琉球王国交流史に関するウェブ（デジタル）教材ダウンロード数は、実績が425件で目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①琉球王国交流史への県民や教育関係者の理解を進めるためには、より分かり易い説明や解説を用いた講座・展示の企画立案が課題である。 ②ウェブサイト利用者数を維持し、かつ利用者層の幅を広げるため、公開するデジタル資料をさらに充実させる必要がある。 ③デジタル教材の開発に関して、校種・教科ごとに対応する学習指導要領に沿った活用法や学習目標を設定し、効果的な活用を考慮したうえで、作成する必要がある。	①様々な歴史資料等を活用し、琉球王国交流史に対しより興味を持たせるなどの工夫が必要である。 ②定期的な資料公開を目指し、公開する交流史資料の検討、デジタル化を計画的に進める必要がある。 ③教員のニーズを把握し、教育現場で取り入れ易く、かつコンパクトにまとめられたデジタル教材作りを目指す。

今後の取り組み方針

- ①琉球王国交流史関係資料の所蔵機関等と連携して、より魅力的な内容の講座や企画展示の立案・実施を目指す。
- ②公開する交流史資料の内容充実に向け、文字資料だけでなく、同時代の絵図などの関連資料等のデジタル化も検討しながら、交流史理解のためのより効果的なプラットフォーム構築のために、更なる改善を図る。
- ③総合教育センターなどの関係機関と連携して、デジタル教材の教員研修等での実践事例紹介、学校現場の教員への支援を進めながら、より使いやすい教材についての考察を進める。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

	総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
沖縄県 交付対象 事業費28,830 千円	報酬 12,220千円	会計年度任用職員5名 12,220千円 〔 歴代宝案編集委員に係る報酬 交付対象外経費 214千円 〕					
	職員手当等 2,526千円	会計年度任用職員5名 2,526千円					
	共済費 2,147千円	会計年度任用職員5名 2,147千円 〔 会計年度任用職員に係る地方公務員共済組合負担金、 社会保険料、雇用保険料 〕					
	報償費 1,418千円	歴代宝案編集協力会議 370千円 歴代宝案の原稿執筆料 997千円 デジタルアーカイブコラム原稿執筆料 51千円 〔 歴代宝案編集委員に係る報償費 交付対象外経費 10千円 〕 〔 ・歴代宝案編集協力会議構成員への謝礼金 ・『歴代宝案の世界(仮)』の原稿執筆料 ・「琉球王国交流史デジタルアーカイブ」コラム 原稿執筆料 〕					
	旅費 763千円	職員旅費(県内) 3千円 会計年度任用職員通勤手当および費用弁償、 特別旅費(台湾) 760千円 〔 歴代宝案編集委員に係る報酬 交付対象外経費 132千円 〕 〔 ・会計任用職員通勤手当通勤手当 ・県内出張旅費 ・編集協力会議構成員費用弁償 ・特別旅費(台湾) 〕					
	需用費 1,004千円	消耗品費 670千円 印刷製本費 334千円 (株)アント出版 330千円 複写料金 4千円 〔 ・歴代宝案訳注本全15冊刊行記念シンポジウム報 告集印刷製本 ・琉球王国交流史史料調査に伴う複写料金 〕					
	役務費 1,024千円	日本郵便株式会社 645千円 (株)善林堂 354千円 通訳料 25千円 〔 ・『歴代宝案』等刊行物の配送、料金後納郵便 ・琉球王国交流史史料調査に伴う通訳料 〕					
	委託料 6,495千円	(株)国建システム 1,424千円 (株)スピア 1,594千円 (株)Nansei 2,178千円 A・P・ジェンキンス 950千円 米田孝子 99千円 承志 250千円 〔 琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ保守業 務、『歴代宝案校訂本第14冊』『歴代宝案校訂本第15冊』本 文テキスト化業務、『歴代宝案の世界』掲載用地図作成業務、 ベッセルハイム日誌partⅢ(補遺編)翻刻、琉球王国交流史 デジタルアーカイブに係る検索機能追加業務、琉球王国交流 史デジタルアーカイブ掲載用挿絵イラスト制作業務、満文 ローマ字転写及び翻刻業務 〕					
	使用料及び賃借料 1,116千円	(株)沖縄エジソン 622千円 (株)OCC 476千円 (株)琉球新報社 18千円 〔 パソコンリース代金、記念シンポジウム関連新聞記事 掲載料 〕					
	備品購入費 117千円	〔 (有)榕樹書林 117千円 〕 〔 書籍購入 〕					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札及び業務の特殊性・専門性・実績等を勘案し選定しており、妥当であった。 ○費用・使途については、業務報告書等进行检查し、事業目的に即して適正に執行したことを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	187	近代沖縄史料デジタル化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-ア-⑤			
				歴史資料の保存・編集・活用			
担当部課名	教育委員会 文化財課	事業実施 (予定)年度	H28～R9 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(3)		
事業内容	県民等による戦前の新聞の活用の利便性を高めるため、作成した画像データを追加公開しウェブサイトコンテンツのさらなる充実を図る。また、利用普及のためウェブ教材等の開発・公開を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度（R6年度）						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・ 執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	20,067		21,418		18,822
		(b) 予算現額	20,067		21,418		18,822
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	20,067	0	21,418	0	18,822
	B. 執行済額		17,122		17,811		17,691
	うち交付金充当額		13,698		14,249		14,153
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）(B/A)		85.3%		83.2%		94.0%
予算の状況の説明		・執行率は94.0%であり、主に委託料の残と、備品購入費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①ウェブ教材等の作成・公開を行う(2件)。	目標			2件	2件	
		実績			2件	2件	
	②約5,000面について著作権処理等を行い、新たにウェブ公開する。	目標			約5,000面	約5,000面	
		実績			0面	約400面	
進捗状況説明	①沖縄の近代期について学ぶことの出来る教材2件を3月末に公開した。 ②切り抜き新聞記事画像約400面について、インターネット公開した。記事中の著作権者不明著作物約2万件について文化庁長官裁定制度申請手続きを進めたが、新たに調整事項が生じたため、画像約8,000面は年度中の公開に至らなかった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (R6年度)
	①ウェブ教材のダウンロード数	目標			23回	84回	209回
		実績			18回	190回	—
	②開設したウェブサイトへのアクセス件数	目標			5,280件	5,880件	6,480件
		実績			8,945件	18,000件	—
	達成状況説明	開設したウェブサイト近代沖縄に関する教材2件を追加公開し、教材は合計4件となった。2023年4月1日～2024年3月31日のアクセス件数及び教材のダウンロード件数は目標を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①著作権の保護期間内にある記事や作品がある。 ②ウェブ公開により不名誉な重大事件・事故などに記載された個人情報、不特定多数にさらされることとなり、関係者の不利益が想定される。 ③ウェブサイトの活用(年間アクセス数)を維持する必要がある。	①新聞画像のインターネット公開に向け、著作権者のリストアップ及び著作権処理を行う必要がある。 ②非公開とすべき個人情報の基準を精査して、マスキングを行う必要がある。 ③教育現場で活用しやすい教材を検討し、コンテンツの充実を図る必要がある。また、県内外機関のホームページにリンク掲載を依頼し、デジタルアーカイブの広報を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
	①著作者不明の著作物の使用について、著作権者への連絡や文化庁長官裁定制度への申請を行う。 ②記事内容を確認し、不名誉な事件・事故等の個人情報をマスキングした画像データを作成する。 ③沖縄近代史にかかるコラムや教材、公開資料を充実させる。 ④データ量が多いため、令和6年度以降も人員の確保に努め作業を進める。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

	総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
			うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
	17,691	17,691	14,153	3,538	0	0	0
沖縄県 交付対象事業費 17,691千円	報酬費 10,212千円	会計年度任用職員4名	10,212千円	〔会計年度任用職員に係る報酬〕			
	職員手当等 2,024千円	会計年度任用職員4名	2,024千円	〔会計年度任用職員の期末手当〕			
	共済費 1,907千円	会計年度任用職員4名	社会保険料 1,798千円 雇用保険料 109千円	〔会計年度任用職員に係る社会保険料等〕			
	報償費 27千円	執筆者2名	原稿料 27千円	〔「近代沖縄史料デジタルアーカイブ」ウェブサイトにかかる執筆原稿料〕			
	旅費 927千円	県外旅費(高知:職員2名)194千円 費用弁償(県内)(会計年度任用職員4人交通費)254千円 費用弁償(県外)(高知:会計年度任用職員1人)96千円 特別旅費(台湾:職員3名)383千円	〔近代沖縄史料調査及び通勤費用相当〕				
	需用費 111千円	〔消耗品(無停電電源装置、ポータブルBlu-rayドライブ等)〕					
	委託料 1,182千円	(株)国建システム	535千円	〔琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ保守業務〕			
		(株)Nansei	647千円	〔戦前沖縄の新聞資料デジタル化〕			
	使用料及び賃借料 830千円	株式会社沖縄エジソン	830千円	〔パソコンリース(4台)〕			
	備品購入費 471千円	富士フイルムBI沖縄(株)	425千円	〔NAS用サーバー及びバックアップ用HDD〕			
	(株)丸仁	46千円	〔小型マルチ収納ラック〕				

資金の流 れ・費 用 目 録 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は見積もり合わせ(2件)および随意契約(1件)で選定した。業務の特殊性・専門性の高さおよび委託金額もふまえ、各々妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	157	沖縄文化芸術の創造発信支援事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	1-(4)-1-③			
担当部課名	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施（予定）年度	H24～R8 年度	文化資源を活用した地域づくり			
事業内容	1 県内の文化関係団体等に対する取組支援 本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や文化芸術等の文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図るため、文化専門人材の目利きのもと、県内文化関係団体等による取組（①文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み、②文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み、③文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み）を公募、審査、採択し、支援を行う。 2 文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談 3 文化芸術人材バンクの運用・文化芸術活動の担い手プログラムの実施						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	92,306		81,683		80,709
		(b) 予算現額	132,575		81,683		80,709
		(c) 増減額 (b-a)	40,269	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	132,575	0	81,683	0	80,709
	B. 執行済額		125,584		74,499		73,874
	うち交付金充当額		100,467		59,599		59,099
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		94.7%		91.2%		91.5%
予算の状況の説明		・執行率は91.5%であり、主に補助金の不要(5,708千円)によるものである。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	補助事業採択数	目標	19件	27件	22件	22件	
		実績	89件	63件	22件	21件	
	文化芸術活動に関する相談件数	目標			100件	100件	
実績				148件	156件		
進捗状況説明		・県内文化関係団体を対象に、公募の上、①文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取組5件、②文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取組8件、③文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取組8件の合計21件を採択した。					
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（〇〇年度）
	文化芸術活動数	目標			20件	20件	
		実績			204件	213件	
	文化芸術活動の享受者数	目標			2,300人	2,300人	
		実績			26,297人	23,445人	
	異分野連携活動数	目標			13件	13件	
		実績			67件	122件	
	本事業に対する応募件数	目標			80件	80件	
		実績			52件	45件	
	文化芸術人材バンクの登録件数	目標				40件	
実績					46件		
担い手育成プログラムの参加者数	目標				25人		
	実績				82人		
達成状況説明		① 文化芸術活動数は213件、文化芸術活動の享受者数は23,445人、異分野連携活動数は122件となり、いずれも目標を達成した。 ② 本事業に対する応募件数については、目標80件に対し、実績が45件で未達となっている。達成できなかった主な理由は、団体（スタートアップ）を対象とする応募が5件にとどまったことによるものである。 ③ 文化芸術人材バンクの登録件数は46件、担い手育成プログラムの参加者数は82人となり、いずれも目標を達成した。					

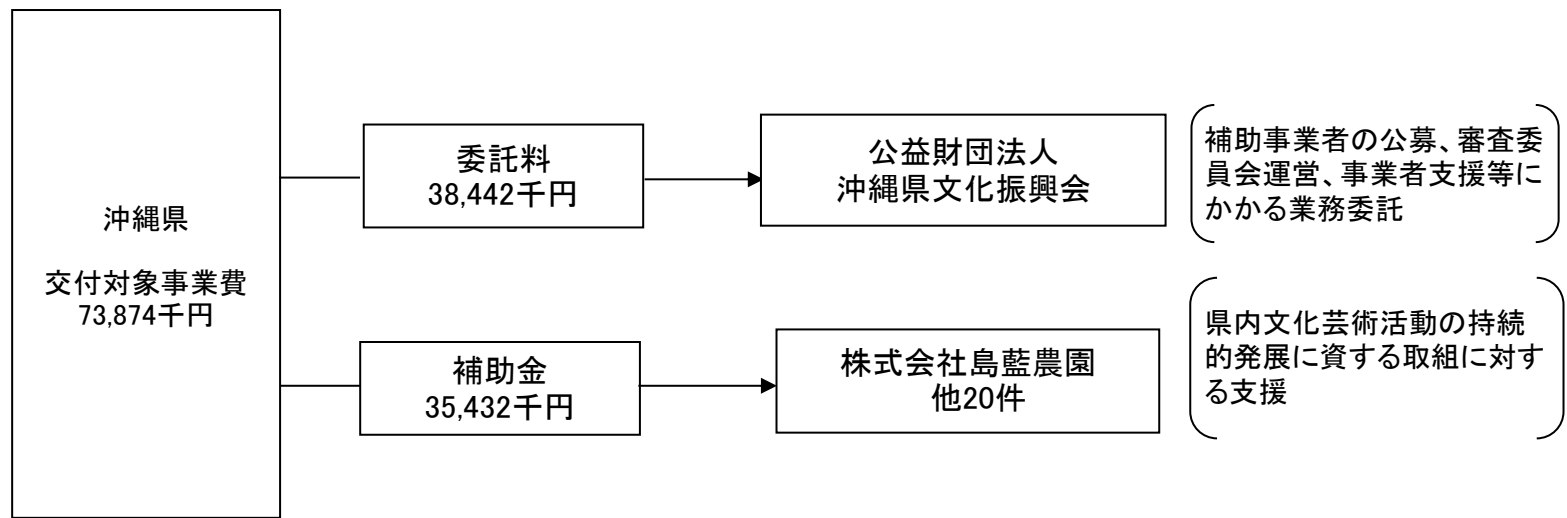
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>① 沖縄県には歴史的・地理的な独自性による多様で豊かな文化資源がある一方で、伝統芸能の実演家やアーティストが活躍できる場が少なく、文化芸術創造活動を支える仕組みが十分とはいえないことから、文化芸術活動を支える仕組みを充実させる必要がある。</p> <p>② 文化芸術活動は社会全体で支えられ発展するものであるが、地域の多様な主体の参画を促すためには、県内文化芸術に対する関心や意識の一層の向上が求められる。</p>	<p>本県の多様で豊かな文化芸術を次代に引き継ぐとともに、県民が気軽に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動者に活動の場を提供することで、本県の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図る必要がある。</p> <p>本事業に対する応募件数を増やすため、文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談等を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

- ① 引き続き、支援を必要とする文化芸術関係団体等へのハンズオン支援をおこなうとともに、文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談等を行うことにより、伝統芸能の実演家やアーティスト等の文化芸術活動を支える仕組みを充実させる。
- ② 県内アーティスト等の多様な活躍の場を設けるため文化芸術人材バンク「沖縄県文化名鑑」を運用する中で寄せられた意見や掲載情報として必要な項目の精査、名鑑の利活用方法についてなど、運用面における改善を図りながら、より広く発信していく。
- ③ 文化芸術に携わる人材の育成を目的とする担い手育成プログラム「オキナワ担い手未来」は、令和5年度の受講生をコアメンバーとした企画チームを発足し、企画構想から実施に至るアートプロジェクトの一連のプロセスを実践する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
73,874	73,874	59,099	14,775	0	0	0



資金の 使途の 流れ・ 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ・ 費目・ 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野に入れて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受益者負担については交付要綱で補助率1年目9/10、2年目8/10、3年目7/10と定めており、妥当と判断している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	161 沖縄県空手振興事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1—(4)—ウ				
担当部課名	文化観光スポーツ部 空手振興課	事業実施 (予定)年度	H29～R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄空手の保存・継承・発展		
事業内容	<p>①沖縄空手流派指導体制構築事業 伝統的な指導法を正しく身につけた指導者の育成を図るため、セミナープログラムの策定や審判講習会の開催等を行う。</p> <p>②沖縄空手イベント開催事業 空手関係団体と連携し、空手の日に奉納演武、記念演武祭を実施する。「最大人数による空手」への調整を行い、国内外へ「空手発祥の地沖縄」を発信する。</p> <p>③沖縄空手指導者派遣事業 空手指導者を国内外に派遣しセミナーを行うことで、指導者及び後継者の育成並びに国内外での沖縄空手の普及・啓発を図る。</p> <p>④沖縄空手県内普及促進事業 県内小中高校・保育園等やニーズを有する団体等に指導者等を派遣して現地又は沖縄空手会館で実技指導や出前講座等を実施する。</p> <p>⑤沖縄空手案内センター事業 沖縄空手に関する各種問合せに対応する窓口開設、国内外の空手愛好家と県内町道場のマッチングを行うアプリの運営・改修等</p> <p>⑥沖縄空手普及・啓発事業 国内で開催される沖縄物産展・旅行博等でのステージイベント参加・出展、沖縄空手に関する意識調査</p> <p>⑦沖縄空手会館ミュージアム事業 沖縄空手会館のミュージアムとしての諸活動(収蔵資料の整理、新たな資料の収集、パネル製作、企画展の年1回の開催、巡回展1ヶ所開催)を行ない、「空手発祥の地・沖縄」の認知度の向上を図る。</p> <p>⑧聖地・沖縄空手ガイド養成事業 空手ガイド養成のテキストを製作し、沖縄空手の歴史や特徴、ゆかり地などの養成講座を開設し、認定制度を設けて、空手ガイド認定証を交付し、空手ツーリズムを確立する。</p> <p>⑨沖縄空手産業連携構築支援事業(産業連携自主事業構築支援) 沖縄伝統空手道振興会における、ライセンスビジネス等産業連携自主事業構築に向けた取組推進を図る。</p> <p>⑩沖縄空手次世代道場継承事業 効果的な道場運営の方法や後継者の育成方法をまとめた沖縄空手の継承プログラムを策定し、沖縄空手の保存・継承を図る。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和6年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	191,023		122,023		115,402
		(b) 予算現額	191,023		122,050		115,402
		(c) 増減額(b-a)	0	0	27	0	0
		(d) 前年度繰越額		75,980			
		A. 計(b+d)	191,023	75,980	122,050	0	115,402
	B. 執行済額		94,510	75,874	110,785		111,094
	うち交付金充当額		75,608	60,699	88,627		88,875
	C. 次年度繰越額		75,980		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		49.5%	99.9%	90.8%		96.3%
予算の状況の説明		令和5年度予算は、執行率が96.3%であり、概ね計画どおりに執行できた。					

活動目標(指標)及び進捗状況	R5活動目標(指標)	進捗状況				
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
活動目標(指標)及び進捗状況	①講習等開催:6回程度	目標			6回	
		実績			各流派6回～8回	
	②-a 奉納演武1回 ②-b 記念演武祭1回 ②-c 映像コンテンツ1つ作成	目標	奉納演武、記念演武祭を実施	奉納演武、記念演武祭を実施	a 1回 b 1回 c 1つ作成	a 1回 b 1回 c 1つ作成
		実績	奉納演武、記念演武祭を実施	奉納演武、記念演武祭を実施	a 1回 b 1回 c 1つ作成	a 1回 b 1回 c 1つ作成
	③-a 海外指導者派遣 2カ国程度 ③-b 国内指導者派遣 1都道府県	目標	指導者派遣を実施	指導者派遣を実施 指導者派遣を実施	a 1カ国 b 1都道府県	a 2カ国 b 1都道府県
		実績	16動画の制作・配信(コロナ対応) 県内本島内での派遣を実施	派遣中止 県内本島内での派遣を実施	a 1カ国 b 1都道府県	a 2カ国 b 1都道府県
	④-a 小中高校等 8校 ④-b ニーズを有する団体 2団体	目標			a 3校 b 1団体	a 8校 b 2団体
		実績			a 7校 b 3団体	a 25校 b 2団体
	⑤県内道場の外国人受入率43%	目標	40%	41%	42%	43%
		実績	6%	3.8%	34.7%	調査中
⑥-a 県外イベント参加4名×3回 ⑥-b 意識調査1回	目標	イベントへの参加(4回)	イベントへの参加(4回)	a 4名3回参加 b 1回	a 4名3回参加 b 1回	
	実績	イベントへの参加(2回)、映像作成	イベントへの参加(2回)	a 4名3回参加 b 1回	a 4名3回参加 b 1回	
⑦-a 収蔵資料の整理:年間14万件 ⑦-b 新たな空手に関する古新聞記事等の収集:200件 ⑦-c パネル製作:6枚 ⑦-d 沖縄空手会館資料室の入館者数:3,586人	目標	新聞資料の収集・整理300件、パネル製作6件	新聞資料の収集・整理300件、パネル製作6件	a 14.4万件 b 300件 c 8枚 d 2,742人(対前年度9.7%増)	a 14万件 b 200件 c 6枚 d 3,586人	
	実績	新聞資料の収集・整理を325件、パネル製作13を行った。	新聞資料の収集・整理300件、パネル製作10件	a 14万件 b 200件 c 6枚 d 5,387人(対前年度65.1%増)	a 14万件 b 216件 c 6枚 d 7,551人	
⑧-a 心得、空手の歴史、特徴、体験、フィールド等60時間以上のカリキュラムや講座の開設 ⑧-b 空手ガイド24人以上養成	目標		a 80時間 b 24人	a 80時間 b 24人	a 60時間 b 24人	
	実績		a 81時間 b 33人	a 64時間 b 31人	a 68時間 b 35人	
⑨-a ライセンス収入を得られる商品開発1件 ⑨-b 沖縄空手映像コンテンツ制作 1件	目標			・「沖縄空手」ロゴマーク商標登録1件 ・一般向け映像コンテンツ制作1件	a 1件 b 1件	
	実績			・「沖縄空手」ロゴマーク商標登録1件	a 1件 b 1件	
⑩継承プログラムの策定	目標				策定	
	実績				策定した	
進捗状況説明	<p>①講習等を各流派毎に6回から8回開催するとともに、セミナープログラムを策定した。</p> <p>②「空手の日」において奉納演武及び記念演武祭を実施し、「空手の日」及び「空手発祥の地・沖縄」を広く国内外に発信した。また、演武祭で行われた演武を映像化し、世界に広く発信した。</p> <p>③海外2カ国(ベルギー、ドイツ)、国内1箇所(関西(大阪))に空手指導者を派遣した。</p> <p>④県内保育所・小中高校等25校、ニーズを有する2団体に空手指導者を派遣し、出前講座や実技指導等を行った。</p> <p>⑤沖縄空手案内センターにコーディネーター3名を配置し、国内外への沖縄空手に関する情報発信、国内外からの問合せに対応した。令和5年度県内道場の外国人受入率については、調査中。</p> <p>⑥県内空手家を県外イベントへ4名3回派遣した。また、意識調査を1回行った。</p> <p>⑦収蔵資料の整理:年間14万件、新たな空手に関する古新聞記事等の収集:216件、パネル製作:6枚を実施した。</p> <p>⑧沖縄空手の歴史や空手関連顕彰碑等ゆかりの地を案内することできる専用ガイドを35人養成した。</p> <p>⑨沖縄空手オリジナルキャラクター「琉空太郎」のデザイン制作、商標登録等を行った。また、沖縄空手をテーマとした修学旅行生向け探求学習プラン構築にかかる動画を制作した。</p> <p>⑩継承プログラム策定に係る検討委員会を設置して、プログラムを策定した。</p>					

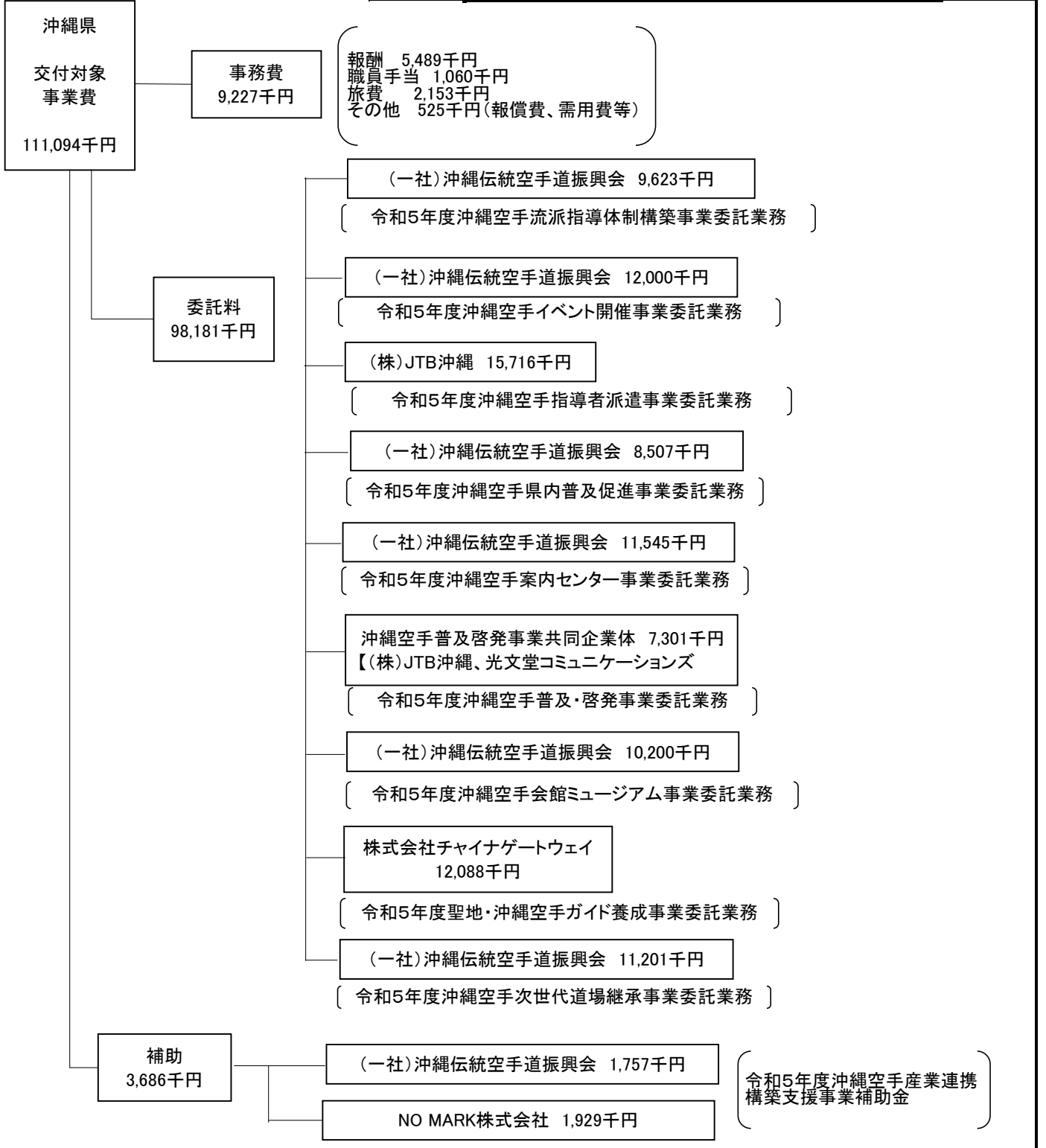
R5成果目標(指標)		基準値	R3年度	R4年度	R5年度	目標値
		(〇〇年度)				(R6年度)
①県内道場の門下生数(平均) 23人	目標		33人	34人	23人	25人
	実績		21.1人	23.1人	21.3人	
②空手の日記念演武祭参加者2,100人	目標		2400人	6,000人	2,100人	2,000人
	実績		320人	1,951人	1,926人	
③、⑤県外・海外からの空手関係来訪者数 4,700人	目標		9,400人	10,500人	4,700人	8,900人
	実績		60人	1,971人	9,228人	
③、⑥県外における「空手発祥の地 沖縄」の 認知率 34%	目標		46%	49%	34%	37%
	実績		36.8%	30.8%	30.7%	
④出前講座等の参加者数 800人	目標			200人	800人	900人
	実績			759人	1,263人	
⑦-a 沖縄空手会館収蔵資料14万点の整理 ⑦-b 沖縄空手の新規資料の収集 ⑦-c パネル製作	目標		新聞資料の収集・整理300件、パネル製作6件 企画展の開催	a 14.4万件 b 300件 c 8枚 d 2,742人 (対前年度9.7%増) e 500人(1箇所)	a 14万件 b 200件 c 6枚 d 3,586人 (対前年度9.9%増) e 300人(1箇所)	—
	実績		新聞資料の収集・整理300件、パネル製作10件 企画展を1回開催	a 14万件 b 200件 c 6枚 d 5,387人 (対前年度65.1%増) e 3,413人(1箇所)	a 14万件 b 216件 c 6枚 d 7,551人 (対前年度40.2%増) e 333人(1箇所)	—
⑧-a 空手ガイド40人の受講者の確保 ⑧-b 沖縄空手ガイドの検定合格者24人 (60%)	目標			a 40人 b 24人(60%)	a 40人 b 24人(61%)	a 40人 b 24人(80%)
	実績			a 39人 b 31人(79%)	a 40人 b 35人(87%)	
⑨産業連携によるライセンスを活用した商品・ 映像コンテンツ開発件数 2件	目標			1件	2件	1件
	実績			1件	2件	
⑩継承プログラムの策定に参画した空手関係 団体数3団体以上	目標				3団体以上	—
	実績				9団体	—
【R6成果目標】 ⑦沖縄空手会館の展示施設観覧者数	目標					10,900人
【R6成果目標】 ⑩県内道場数	目標					373道場
達成状況説明	<p>①令和5年度県内道場の門下生数については、調査中。</p> <p>②「空手の日」記念演武祭の参加者については、実績が1,926人であり、目標を達成できていない。</p> <p>③、⑤県外・海外からの空手関係来訪者数については、新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、空手関係来訪者数が増加し、目標を大きく上回った。</p> <p>③、⑥県外における「空手発祥の地沖縄」の認知率については、実績が30.7%であり目標を達成できていない。前年度と比較しても認知率はほぼ横ばいだが低下しており、継続的に認知度向上の取組が必要である。</p> <p>④県内の保育所・小中学校等及び団体に対して空手指導者を派遣し、出前講座等へは計1263人の参加となり目標を達成した。</p> <p>⑦収蔵資料の整理:年間14万件、新たな空手に関する古新聞記事等の収集:216件、パネル製作:6枚を実施し、沖縄空手会館資料室の入館者数:7,551人(対前年度40.2%増)を達成した。</p> <p>⑧空手ガイド受講者(40人)については、実績が40人で目標を達成した。沖縄空手ガイドの検定合格者(24人)については、実績が35人で目標を達成した。</p> <p>⑨産業連携によるライセンスを活用した商品開発については、沖縄空手オリジナルキャラクター「琉空太郎」が商標登録され、目標を達成した(ライセンス自体を商品化(有償使用)したため実績値1件と判定)。映像コンテンツ開発については、沖縄空手をテーマとした修学旅行生向け探求学習プラン構築にかかる動画を制作し、目標を達成した。</p> <p>⑩継承プログラムの策定に参画した空手関係団体は、9団体となり、目標を達成した。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の育成を図ることで門下生の増加にも寄与するものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、門下生数が減少傾向にある。 ・県外・海外からの空手関係来訪者数については、コロナ後、増加傾向にあり、令和6年度は「第2回沖縄空手少年少女世界大会」も開催予定であることから、より多くの国内外からの来訪が見込まれる。 ・県外における「空手発祥の地沖縄」の認知率については、イベント出展による普及活動は出展地での増加には繋がっており、今後全国的な認知度向上に繋げていくための取組も行う必要がある。 ・聖地・沖縄での空手修行や縁の地訪問といった強固な目的意識をもった英語圏以外のインバウンドも増えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による制限が徐々に緩和されている状況にある中で、空手道場の活動もコロナ以前に戻りつつある。 ・来訪する空手愛好家の満足度向上、再来訪の意欲を高める取組を行う必要がある。 ・県外における「空手発祥の地沖縄」の認知率については、イベントに参加しない方へも認知度向上が図られるよう、普及方法を検討する必要がある。 ・空手ガイドの需要増加に対応できるよう、英語以外のガイドの養成にも取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・県内道場の門下生数の増加に向け、引き続き指導者の育成を図る取り組みを継続する。 ・県外・海外からの空手関係来訪者数については、増加傾向にあることから、引き続き、案内センターを運営し空手愛好家の利便性向上を図るとともに、空手会館での企画展の実施、資料の充実に取り組み、空手会館資料室の魅力向上に努める。 ・「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上については、引き続き、県内外での体験型イベントの実施に取り組むとともに、拡散能力の高いSNS広告等を活用し、全国に向けて効果的に発信する。 ・空手ガイド養成研修の募集に当たっては、英語以外の通訳案内士も対象とする。研修内容の理解度を向上させるため、予備試験を実施し各々の課題を認識させ、知識の定着を図る。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
113,219	111,094	88,875	22,219	0	0	2,125



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○沖縄伝統空手振興会は、県内空手界の統一組織であることから、効果的かつ効率的に業務を執行し事業の目的を達成することが可能な委託先として適切であった。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○振興会以外への委託・補助事業については、公募型プロポーザル方式を選択し、事業執行に適している企業体制、実績、技術等を勘案した上で委託先を選定しており、妥当であったと認識している。
	- 受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、目的達成のために必要なものであるのかを事業検査時の支出に関する書類により確認し、適切であった。
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	162	沖縄空手世界大会開催事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	1-(4)-ウ-③			
担当部課名	文化観光スポーツ部 空手振興課	事業実施（予定）年度	H29～R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄空手世界大会の定期開催等を通じた国際交流		
事業内容	令和6年度に開催する「第2回沖縄空手少年少女世界大会」に向け、実行委員会の立ち上げ、各種規程等の整備、審判講習会等を実施するとともに、県内予選を開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（令和6年度）						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			53,614		38,640
		(b) 予算現額			53,614		38,640
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	0	0	53,614	0	38,640
	B. 執行済額				53,557		37,661
	うち交付金充当額				42,845		30,129
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率（%）(B/A)				99.9%		97.5%
予算の状況の説明		<p>令和5年度予算は、執行率が97.5%であり、概ね計画どおりに執行できた。 なお、当事業は、令和3年度までは沖縄空手振興事業の細事業であり、復帰周年事業や空手会館開館記念事業として単発で沖縄空手国際大会(対象年齢15歳以上)を開催していたが、令和4年度より「沖縄空手世界大会開催事業」として4年に1度の定期開催とすることとした。また、これまでの国際大会では対象となっていない6歳～14歳以下の大会として少年少女世界大会も定期開催する。</p>					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
	各種規程等の整備		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
		目標	大会に関する規定等の策定	世界大会開催準備	世界大会開催	各種規程等の整備	
	実績	大会に関する規定等を策定した。	世界大会開催準備	世界大会開催	各種規程等の整備		
進捗状況説明	実行委員会を立ち上げ、各種規程等を整備し、大会開催に向け計画通りに実施した。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値（〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（R6年度）
	県内予選参加者数：1,300人	目標				1,300人	
		実績				1,148人	
	【R6成果目標】 大会参加者数 約1,500人	目標		3,000人	約1,600人		
		実績		審判教本の策定、審判所作 動画の撮影、 審判員育成	724人		約1,500人
達成状況説明	県内予選については申込者数1,218人であったが、体調不良等の理由によりキャンセルがため、参加者数は1,148人となった。目標1,300人には届いていないが、第1回少年少女世界大会の県内予選参加者数1,054名を上回ることができた。						

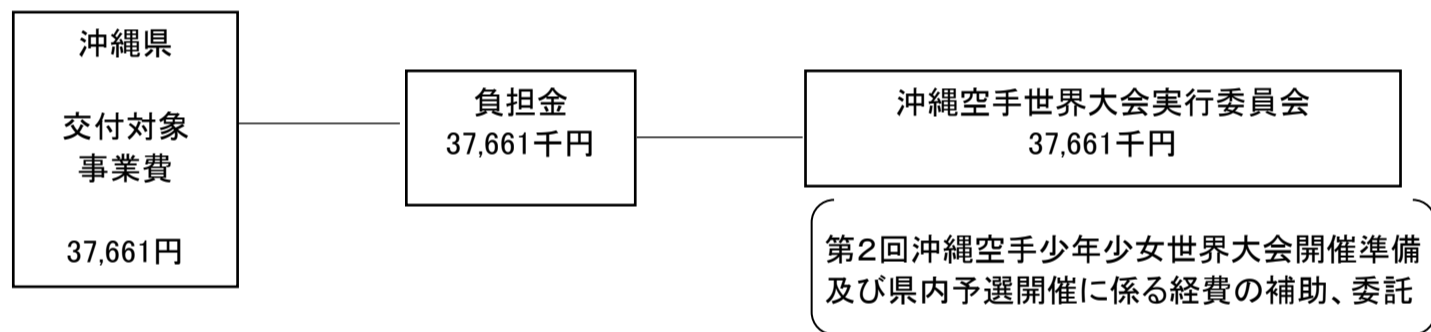
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・今大会は、コロナ後に開催する最初の大会であることから、県外・海外からの参加者数についても前回大会より増加が見込まれる。 ・大会参加者以外の県民や観光客等に向けても、大会の周知広報を図るとともに、大会の開催に向けた気運醸成を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外からの参加者等の記念になるような大会運営を検討する必要がある。 ・引き続き、大会の周知広報に取り組み、大会の開催に向けた気運醸成を図る。

今後の取り組み方針

- ・国内外からの参加者等の記念になるよう、開閉会式、フェアウェルパーティー等について規模を拡充して実施する。また、空手愛好家以外の方も楽しめるよう、空手フェスティバルを開催する。
- ・大会開催までの間に3ヶ月前イベント、1ヶ月前イベント等の関連イベントを複数回開催するとともに、TV・ラジオ等を活用した周知啓発・気運醸成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
41,024	37,661	30,129	7,532	0	0	3,363



資金の流 れ、費 目・使 途の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、大会実行員会を立ち上げ、当該実行委員会へ負担金として支出したことは妥当である
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、実行委員会非常勤職員の人件費で残予算が生じたものの、概ね適正規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、目的達成のために必要なものであるのかを実行委員会監事2名による監査で確認し、適切であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

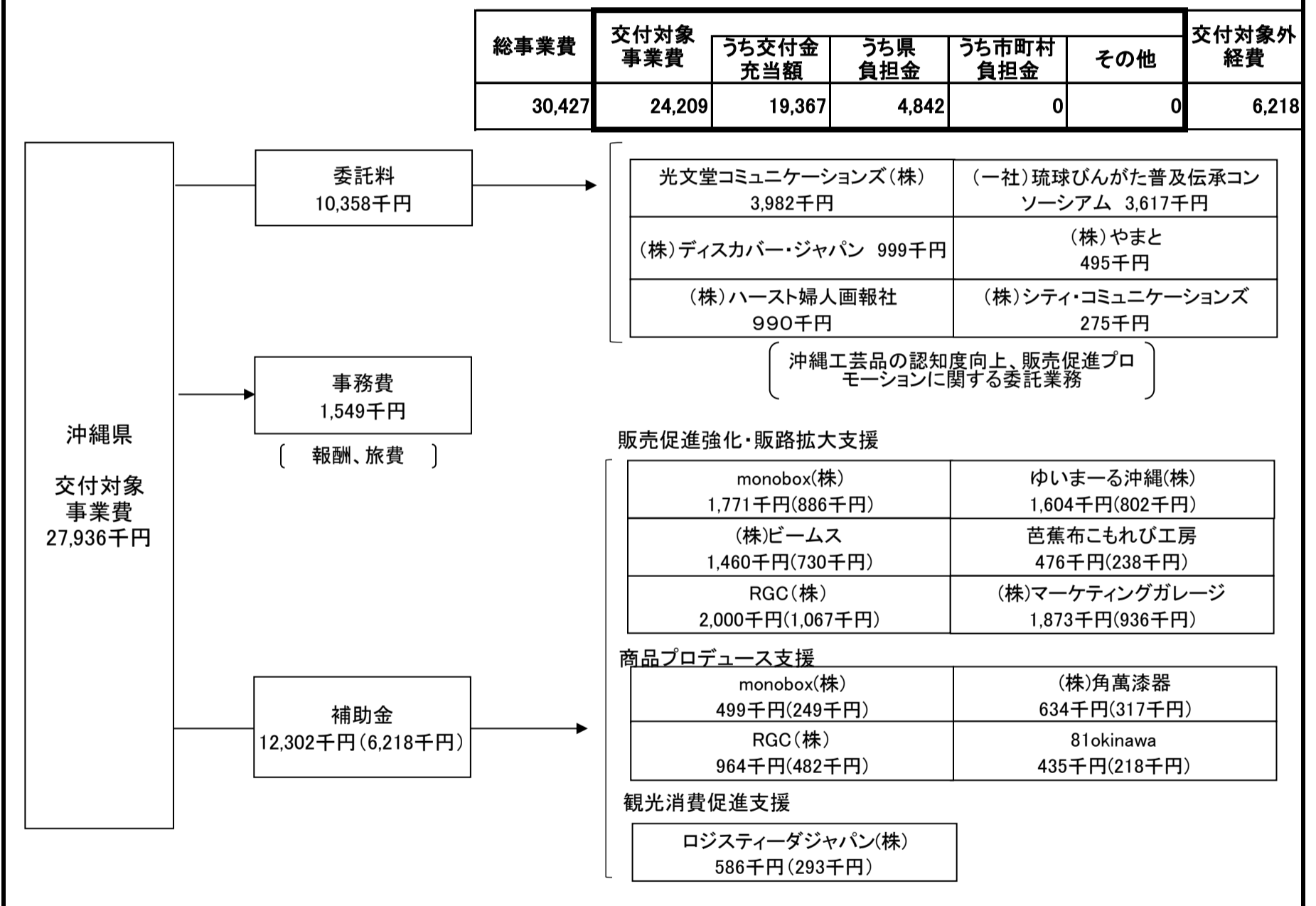
事業番号・事業名	108	島工藝おきなわ販路拡大推進事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-I-②			
					伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興			
担当部課名	商工労働部	ものづくり振興課	事業実施 (予定)年度	R4~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)	
事業内容	工芸産業の活性化を図るため、沖縄独自の魅力を活かした工芸品等の認知度向上及び販売強化を促進する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】			R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額				31,250	0	29,423
		(b) 予算現額				31,250	0	29,423
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額				0	0	0
		A. 計(b+d)	0	0	31,250	0	29,423	
	B. 執行済額				27,936	0	24,209	
	うち交付金充当額				22,348	0	19,367	
	C. 次年度繰越額				0	0	0	
	執行率(%) (B/A)				89.4%		82.3%	
予算の状況の説明		・予算額は工芸品等のPR・販売拡大業務の委託料、補助金、事務費等を計上したものである。 ・執行率は82.3%であり、主に補助金の執行残が発生したことによるものである。						
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況					
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度		
	販売促進事業支援件数		目標	—	—	10件以上	10件以上	
		実績	—	—	11件	11件		
進捗状況説明		販売促進支援件数について、事業者等へ活用を呼びかけ、目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (令和6年度)	
	支援対象事業者の年間売上合計額		目標	—	200百万円	160百万円	160百万円	
			実績	—	288百万円以上	668百万円以上		
達成状況説明		11者に対して販売促進事業支援を行い、年間売上合計額実績は目標値を大きく上回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>観光客へのイベント告知や工芸品の魅力PR等に加え、より効果的に宣伝・普及ができるイベントを優先して、宣伝普及に取り組んだ。</p> <p>引き続き効果的に県工芸品の宣伝普及を行うため、県内工芸事業者グループや、販路を有するプロデューサーとの協働が可能な工芸事業者等の更なる掘り起こしが必要である。加えて、これまでの実施事業等を再検討し、より効果的な工芸品の宣伝普及に向けて取り組む必要がある。</p>	<p>補助金の活用を検討している事業者等の相談に応じる体制を整える必要がある。また、事業採択後は、前年度までの実施事業等を踏まえ、各企画のより効率的かつ適切な実施に向けた検討や助言等の支援を行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

補助事業のより効率的な実施のため、ハンズオン支援を実施する。これにより、事業者の事前相談や、デザイナーやバイヤー等とのマッチング等、事業活用に向けた体制を整え、より多くの事業者に活用を促す。また、事業採択後は、各計画のより効率的かつ適切な実施に向けた専門家からの助言等の支援を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、公募を実施した上で、審査委員会で事業の内容を審査し選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	企画提案プロポーザルを実施しなかった随意契約の委託事業者についても、少額かつ特定のイベントでのタイアップや特定の広告媒体へのタイアップ記事の作成等の業務の委託であり、妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	109	セルフプロデュース力強化工芸研修事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	1-(4)-E-②			
担当部課名	商工労働部	ものづくり振興課	事業実施 (予定)年度	R4~R8	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	工芸事業者に対し、「自己プロデュース力」を強化する人材育成を実施する。PDCAサイクルの考え方のもと、2年を1単位とした人材育成を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			12,500		15,069
		(b) 予算現額			12,500		15,069
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	12,500	0	15,069
	B. 執行済額				11,941		14,772
	うち交付金充当額				9,553		11,818
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)				95.5%		98.0%
予算の状況の説明		・予算額は人材育成に係る委託料、事務費等を計上したものである。 ・執行率は98%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	基礎研修12名の修了者数	目標	—	—	12名	12名	
		実績	—	—	12名	12名	
	強化研修12名の修了者数	目標	—	—	—	12名	
		実績	—	—	—	9名	
進捗状況説明	基礎研修12名、強化研修9名、合計21名が所定のカリキュラムを修了した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況			基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	受講者7割以上の者が、受講前と比較して10%の生産額増	目標	—	—	7割	7割	—
		実績	—	—	9.2割	7.1割	—
	達成状況説明	・生産額が10%以上増加した割合は、目標値7割に対し7.1割となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・基礎研修は所定の定員12名で研修を実施したが、強化研修については定員12名に対し、9名の受け入れとなった。応募者が集まらない要因として、研修内容が過密で、受講時間の確保が厳しいとの意見があった。</p>	<p>・応募者確保のため基礎、強化研修の研修の実施方法の効率化を図ること、および受講生の目的に沿った選択科目を設けて時間圧縮を図る必要がある。</p> <p>・強化研修は公募時期等を工夫し、応募者数の増加を図る必要がある。</p>

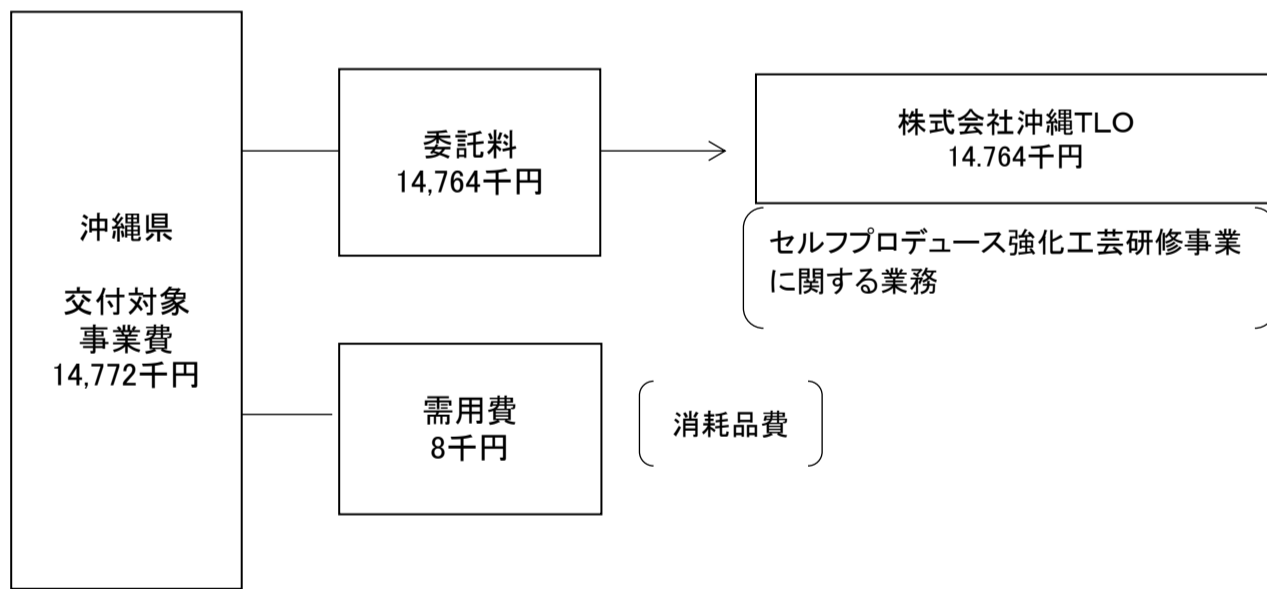
今後の取り組み方針

・事業は適切に執行され、当初目標を達成している。工芸の杜における工芸事業者支援を見据え、カリキュラムの改善、改良を図る。強化研修の応募者数の増加を図るため、基礎研修の告知期間をより長く設定し、募集説明会の開催も増やすことで、周知力の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,772	14,772	11,818	2,954	0	0	0

[セルフプロデュース力強化工芸研修事業]



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルによって選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	